

中学校の年間行事予定と三学期制の定期テスト等の日程比較について

- 別紙

二学期制の学校から三学期制の学校に赴任した先生の感想等

- 三学期の良い点と感じたところ
 - ・ 長期休みを機に学期が切り替わるので、気持ちの切り替えや、新しいめあてをたてるなどがやりやすくてよい。
 - ・ 生徒にとっては試験の数が二期制より多いため、試験範囲が細かく集中して取り組める印象がある。
 - ・ 3年生にとっては評価が高校の個別相談で使う通知表が1学期と2学期で2回あるので、チャンスが多いと思われる。
- 二学期制の良い点と感じたところ
 - ・ 通知票を書く回数が少なくて良い。
 - ・ 夏休みが有効に使える。前期期末テストを目標に、休みであるが学習が途切れな
 - い。
 - ・ 定期テストが少ない分、集中して取り組める。ON、OFFはっきりしている。テスト週間のゆとりがとれる。
 - ・ 体育祭、合唱コンクール等の長期にわたる行事を計画しやすい。生徒も集中できる。
 - ・ 働き方改革の考えにあっている。
 - ・ 授業時数の確保ができるので、ゆとりがある。テストの回数や通知表づくりも3期制に比べて少ないので、時間に余裕が持てる分、各行事の取組や、学習会の企画など生徒に接する時間を確保しやすい。
 - ・ 夏休み明けに試験があるので、夏休みが生徒にとって学習の機会となる。

○ 三学期制の課題と思うこと

- ・ 定期テスト期間により、長期にわたる行事（合唱コンクール等）が分断され、行事の成果等を深めることが出来ない。
- ・ 時間を生み出すために、日課のパターンが多数あり、わかりにくい。
- ・ 夏休み前に一学期成績を渡すことは、良くもあり悪くもある。1、2年生の多くの生徒はそこで学習が途切れてしまい、それをつなぐために、多くの宿題を課すことになる。
- ・ 通知票作成、定期テスト作成、特に担任は大変そうです。
- ・ テストの回数や通知表を出す回数が二期制に比べて多く、日々の授業や行事に追われてゆとりが持てない。結果、例年通りの現状維持で物事を進めていく傾向にある。
- ・ 授業時数の確保もギリギリで、新しい何かに挑戦する余裕を持てない。長期休業前に通知表を配布するので教員は作成時間に追われ、生徒は長期休みが休憩期間となってしまう、取り組み方で学力格差が生まれやすい。

○ 二学期制の課題と思うところ

- ・ 一学期の間に夏休みがあるので、特に夏休み明けの気持ちのもっていき方が難しい。また、学期間の休み（秋休みのようなもの）が長めにあるとよい。
- ・ 試験範囲が広く、生徒の定期テストへの取り組みが大変と感じる。
- ・ 3年次、夏休み前に成績を示すことができないので、評価がわからず受験校に向けた指針が立てにくい。通知表も1度しかもらえないので、個別相談に行く際も資料の数が少ない。